

地域内耕畜連携の推進

～WCS用稲の収量・品質の向上と安定供給に向けて～

1 活動のねらい

千葉市の水稲経営体と畜産経営体の経営安定を図るために、市と連携し、水稲経営体と畜産経営体の地域内連携によるWCS用稲の生産拡大と供給体制の整備を進めています。令和4年は、水稲経営体が担うWCS用稲の収量向上と安定供給に向けて、両経営体が合意形成できるよう支援しました。

2 課題の背景

市内の水稲経営体と畜産経営体が連携し、令和3年は1経営体がWCS用稲「たちすずか」を約0.6ha栽培しました。令和3年の収量は2.1t/10aで、ほ場条件が悪く、水管理と除草対策が不十分なため、目標収量3t/10aを確保することができませんでした。収穫作業は、市内に収穫作業を請負う体制が整っていないことから、市外のコントラクター組合（旭市）に委託しました。令和3年の取組結果を踏まえ、WCS用稲の栽培面積拡大に向けて今後の活動の方向性を定める必要がありました。

そこで、令和4年はWCS用稲の収量向上・品質改善のために栽培管理技術指導をするとともに、安定供給に向けて水稲経営体・畜産経営体・コントラクター組合の役割分担などの連携方法について支援しました。また、市とWCS用稲の栽培面積拡大に向けて現状や問題点を整理しました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 収量向上・品質改善のための栽培管理技術指導

令和4年は、1経営体がWCS用稲の栽培面積を令和3年から2ha拡大し約2.6haに、品種をエサとして牛の嗜好性と消化性が良く、縞葉枯病に強い「つきすずか」に変更しました。

令和3年の取組結果を基に、ほ場条件の確認などWCS用稲栽培に適したほ場の選定を支援した他、栽培開始前には栽培要点を、栽培期間中は生育調査に基づき除草や追肥等の管理技術を指導しました。その結果、令和4年の収量は4.7t/10aと目標収量を大きく上回りました。

(2) 安定供給に向けた関係者の連携支援

収穫作業を市外のコントラクター組合に委託しているため、水稲経営体・畜産経営体・コントラクター組合の情報共有や意見交換の場を設定しました。4月にコントラクター組合と収穫計画の確認、6月に前年産稲WCSの品質と改善点の検討、9月に収穫前の生育状況と収穫する際の留意事項を指導しました。

これにより、収穫作業が順調に行われ、安定取引が図られたことから、次年も取組を継続することが合意されました。こうした活動が波及し、令

令和5年には更に1経営体がWCS用稲の栽培を開始し、市内WCS用稲栽培面積が拡大する予定となりました。



写真1 前年産稲 WCS の品質と改善点の検討



写真2 収穫前の現地確認

(3) 栽培面積の拡大に向けた検討

WCS用稲の栽培面積拡大について、市と意見交換し、現状と問題点を整理しました。その結果、事業等を活用した収穫機械の導入、収穫機械のオペレーターの確保や育成等、市内での収穫作業の体制を整備する必要があることを共有し、課題解決に向け連携して活動することを合意しました。

4 今後の課題

令和5年は、更に1経営体がWCS用稲の栽培を開始します。WCS用稲の収量向上・品質改善のため栽培管理技術の指導や、安定供給に向けて引き続き水稻経営体・畜産経営体・コントラクター組合の連携の支援をしていきます。

また、市と連携し、水稻経営体に対して稲WCSの取組事例の情報提供や研修会を開催するとともに、畜産経営体の求める量や水稻経営体の栽培可能な面積を確認し、市内での収穫作業の体制整備を図っていきます。

5 担当者 千葉・習志野グループ ◎黒住 和美、清宮 斉
八千代グループ 原 浩文

6 協力機関 千葉市